

<ガザの人道状況についての英国下院での公聴会>

訳者から

2024年11月12日に開催された、英国下院議会・国際開発委員会での「ガザの人道状況」についての公聴会での口頭証言 (oral evidence) を紹介します。

この年の2月に、英国赤十字社は、ガザが「医療機能の完全停止」の危機に瀕していると警告していました。実際、この公聴会が開催された時点で、戦争前のガザにあった36の主要病院のうち、多少なりとも機能しているのは僅か17病院になっていました。

この公聴会で、下院議員たちは、移植外科の専門家であるニザム・マモード教授をはじめ、ガザの現地で活動した経験を持つ人々から証言を聴取しました。マモード教授は最近、2月にイスラエル軍による襲撃を受けたガザのナセル病院に滞在していました。

過去の議会において、当時の国際開発委員会はガザの人道状況に関する口頭証言会を数回開催し、委員長は当時のキャメロン外相とも書簡のやり取りをしていました。その最終の書簡 (2024年4月26日付) は以下。

サラ・チャンピオン、国際開発委員会委員長様、

2024年4月25日付のUNRWAに関するお手紙、有難うございました。

10月7日にイスラエルで発生したテロ攻撃にUNRWA職員が関与していたという疑惑は極めて深刻であり、そのため我々は断固たる措置を講じ、同機関への今後の資金提供を一時停止しました。

我々は、キャサリン・コロンナ氏の最終報告書、UNRWAの回答、およびこれらの疑惑に関する国連内部監査局(OIOS)による現在進行中の調査を慎重に検討した上で、UNRWAへの今後の資金提供に関する我々の立場を明らかにする予定です。

我々は、人道支援を切実に必要としているガザの人々に支援を届けることに、引き続き全力を尽くします。前会計年度、我々はパレスチナ占領地域への支援額を3倍以上に増やし、1億ポンド超としました。

我々は、陸路、海路、空路を通じて、より多くの支援物資をできるだけ迅速に届けるべく、あらゆる手段を講じています。ここ数週間、英国空軍はガザ沿岸で数回にわたり空輸支援を行い、8トン以上の食料やその他の生活必需品を届けました。UK Aidの資金提供によりUK-Medが設置した野戦病院がガザ南部で稼働しており、1日あたり100人以上の患者を治療しています。また、我々は先日、世界食糧計画(WFP)に対し、ガザの27万5,000人を養うのに十分な2,000トンの食糧援助を提供する資金援助を発表しました。さらに、海上支援回廊の設置に向けた国際的な取り組みを支援しています。

4月17日のイスラエル訪問の際、私は同国の関係者に、アシュドッド港やエレズ検問所を通じた人道支援物資の搬入を許可するなど、ガザへの支援物資の量を増やすという歓迎すべき約束を確実に履行するよう強く求めました。また、新規および既存の陸路検問所での国連や支援機関を支援するための機材購入に向け、英国から300万ポンドの追加資金を提供することも発表されました。お手紙をいただき、改めて感謝申し上げます。

チップینگノートのキャメロン男爵、外務・英連邦・開発大臣

<https://committees.parliament.uk/publications/44499/documents/221214/default/>

英語のオリジナル：

<https://committees.parliament.uk/oralevidence/14985/pdf/>

この証言の収録画像：

<https://www.youtube.com/watch?v=gJe2yrwRzB8>

<https://www.parliamentlive.tv/Event/Index/8bf26f77-1964-45cf-a141-0f78ab9d00ab>



HOUSE OF COMMONS

International Development Committee

Oral evidence: Humanitarian situation in Gaza, HC 373

Tuesday 12 November 2024

英国下院議会・国際開発委員会「ガザの人道状況」についての口頭証言 (oral evidence)

2024年11月12日 (火)

出席議員：サラ・チャンピオン (委員長)、モニカ・ハーディング、ローラ・カーク＝スミス、ノア・ロー、アリス・マクドナルド、ブライアン・マシュー、ゴードン・マッキー、デビッド・リード、サム・ラッシュワース、デビッド・テイラー

質問 (Q) 1～64

証人

I：ニザム・マモード、移植外科教授

II：エミーナ・チェリモヴィッチ、ヒューマン・ライツ・ウォッチ障がい者権利部門の副部長；ネバル・ファルサフ、パレスチナ赤新月社の広報担当；サム・ローズ、ガザ地区における UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) 担当上級副部長；ローハン・タルボット、パレスチナ人医療支援団体アドボカシー・キャンペーン部長

証人尋問

証人：ニザム・マモード教授

Q1 委員長：国際開発委員会の最初の会合を開始します。新たに設立された本委員会の最初の証人として、ニザム・マモード教授をお迎えできることを大変光栄です。彼は移植外科の教授ですが、今回、ガザの病院で活動され、最近帰国されたばかりであるため、本日お招きしました。現在ガザで何が起きているかについて、直接の証言を得ることは大変困難な事態ですが、ご来訪いただき、ご経験を共有してくださることに感謝します。ご自身について簡単にご紹介いただき、現地でどのような活動をし、いつ帰国されたかをお話し頂けますか。

マモード教授：私は今は移植外科の教授ではありません。数年前に NHS (英国国民保健サービス) 財団トラストを退職し、その後は海外の活動に従事しています。8月中旬～9月中旬の1ヶ月、ガザのナセル病院で「パレスチナ人医療支援団体 (Medical Aid for Palestinians : MAP)」と共に働きました。そこでの経験を話します。

Q2 議長：どうぞお話しください。いつ行かれたのですか？なぜ行かれたのですか？

マモード教授：なぜ行ったのか？自分には役立つスキルがあると思ったからです。国境を越える車列の中に座っていた時、少し躊躇しましたが、もう車列から降りるには遅すぎました。国境を越えた時に最初に感じたのは

完全な衝撃でした。

Q3 議長：何が見えましたか？ どんな匂いがしましたか？

マモード教授：その光景は広島や長崎を彷彿とさせました。見渡す限り、何マイルにもわたって荒廃し、建物は瓦礫と化していました。何も生えておらず、人もおらず、所々に略奪者が数人いるだけで - 何もないのです。その中を車で 20 分ほど走ると、ガザ南部の中央部に到着します。そこは「グリーンゾーン」と指定されていましたが、私はそれを「安全地帯」や「人道支援地帯」と呼ぶ気にはなれません。なぜなら、どちらでもなかったからです。そのグリーンゾーンには約 130 万人が暮らしています。

Q4 議長：それはどのような地域ですか？

マモード教授：おそらくロンドン市とほぼ同じくらいの広さでしょう。もし安全であればですが、歩いて簡単に横断できるほどです。その大部分はテントで構成されています。テントと言っても、きちんとしたテントもありますが、多くは棒にカーペットやビニールを張っただけのものです。これらは道路の真ん中や脇、ありとあらゆるスペースに設置されています。当然ながら、水道も衛生設備も電気もありません。人々は、急な通知により何度も何度もテントを畳んで移動せざるを得ない状況です。殆どの人が 6 回か 7 回は移動しています。

Q5 議長：どんな音がして、どんな匂いがしますか？

マモード教授：そうですね、音に関しては主に 2 つの要素があります。一つはドローンの音です。絶え間ないドローンの音です。ドローンは昨年 10 月以前から存在し、しばらくの間パレスチナ人の生活の一部となっていました。今ではドローンは恐怖を煽っていると思います。少なくとも私にとってはそうでした。かつて、階段の外で寝るべきか、それとも非常に混雑した暑い部屋の中で寝るべきか悩んでいた時、その決断の一因は、階段にいる私をドローンが標的にできるかどうかという点にありました。

Q6 議長：ご自身が特定されるという意味ですか？

マモード教授：いいえ、私を撃ち殺すということです。イスラエル軍はそうするのです。ドローンは監視用ですが、日常的に人々を撃つドローンでもあります。私が手術を行った患者の中には、そのような体験をした人もいますので、そのことについてはもっと詳しくお話できると思います。つまり、絶え間ないキーンという音が聞こえるのですが、それは危険を予感させ、常に耳に響いているため、心理的に非常に大きな影響を与えます。もう 1 つ聞こえる音は爆弾の爆発音です。私がそこにいた 1 ヶ月の間、1、2 時間おきに爆発が起きていました。

私たちは 1 ヶ月間ずっと病院に滞在しました。移動するのは安全ではないと判断したからです。夜間外出禁止令が出ていることも承知していたので、夜間に負傷者が搬送されてきた場合に備えて病院に留まりたかったのです。ゲストハウスはありましたが、移動が面倒だし、何より今年 1 月に MAP のゲストハウスの 1 つが爆撃を受けたこともあり、病院に滞在しました。ミサイルや砲弾が近くで爆発すると、建物全体が揺れ、窓がガタガタと音を立てました。窓の外を覗いたり、外に駆け出したりして、どれほど近くで起きたのかを確認するのですが、それは日常茶飯事でした。

病院への直接攻撃はあり得ないだろうと考えていたため、私たちは比較的安全だと感じていました。しかし、グ

リーゾーンの130万人、140万人の人々は、昼夜を問わず絶えず爆撃を受けていました。私が特に胸を痛めたのは、爆弾が、おそらく人でごった返すテントのエリアに投下され、その後ドローンが飛来して -

議長：どうぞゆっくりお話しください。本日はお時間を割いて頂き感謝しています。この体験があなたにどのような影響を与え、今後も与え続けるか、想像に難くありません - 目にした光景は決して忘れられないでしょう - しかし、その体験を共有して下さることは、特に立法者に説明責任を問う上で、私たちの大きな助けとなります。

マモード教授：ドローンが降りてきて、民間人 - 子供たちを撃ち殺したのです。私たちにはそのような証言が次々と寄せられました。これは偶発的な出来事ではありません。連日連夜、私たちは子供たちの手術を行ってきましたが、ガザの人々はこう言っていました。「爆弾が落ちて爆風で地面に倒れていたら、クアッドコプターが降りてきて、頭上でホバリングし、撃たれた」。これは明らかに意図的かつ継続的な行為であり、毎日、民間人が執拗に標的にされていました。毎日1、2件の大量死傷事故が発生しており、それは10~20人の死者、20~40人の重傷者を意味していました。私が以前勤務していたガイズ・アンド・セント・トーマス病院（ロンドンにあるNHSの病院グループ）のような施設でも、年間1、2件程度しか発生しないでしょう。しかし、ここでは毎日1、2件発生し、私たちが治療した患者の60~70%は女性と子供でした。

Q7 議長：申し訳ありませんが、詳しくお伺いします。「子供たち」とおっしゃいましたが、その年齢を教えてくださいませんか？爆風で地面に倒れていたと彼らが話していたとのことですが、その話は本当ですか？

マモード教授：ええ、もちろんです。7歳の子供がでっ上げの話をするはずがありません。

Q8 議長：つまり、10代後半ではなく、幼い子供たちの話ということですね。

マモード教授：犠牲となった子供たちの大半は幼い子供たちでしたが、10代の子供や30代の女性もいました。証言は一貫しており、救急外来に搬送されるやいなやその話を聞いたため、これを疑う理由は全くありません。

ドローンの発射する弾丸は、このような小さな直方体の弾丸です。私は幼い子供たちの腹部から、こうした弾丸を幾つも摘出しました。私が手術した中で最年少だったのは、首の動脈に重傷を負った3歳の女の子だったと思います。病院にはそのような器具が全く揃っていなかったため、脳への血液供給を維持するために首の動脈を迂回させる装置「シャント」の最後の1つを使用しました。彼女はその後3、4日後に感染症で亡くなりました。

Q9 議長：これは民間人への意図的な攻撃だったとお考えですか？

マモード教授：疑いの余地がありません。数多くの医療従事者が、これを何度も何度も記録に残してきた事実があります。自分の経験や同僚たちの経験からも、これは明らかに、執拗かつ意図的な民間人への攻撃であったと言えます。私は世界各地の多くの紛争地域で活動してきましたが - ルワンダ大虐殺の際も現地にいました - これほど大規模な殺戮は、これまで一度も目にしたことがありません。私と共に働いた経験豊富な同僚たちも皆、同じ見解でした。私のチームに所属する外科医の1人は、ウクライナに5回赴いたことがありますが、「ここは10倍もひどい」と言っていました。

通常、紛争地帯には前線があり、2つの勢力が戦闘を繰り広げて、その交戦中に民間人が負傷することもあるでしょう。しかし、ここでは前線というものは存在しないようです。ただ140万人の人々が閉じ込められ - 脱出で

きない状態で - 毎日爆弾が投下され、さらにドローンが飛来して攻撃を受けているのです。イスラエル兵士の証言など、こうした状況が進行している証拠は数多く存在しますが、私たちはその結果を目の当たりにしました。

Q10 ローラ・カーク＝スミス：感染で亡くなった子供についてお話しになりました。物資の搬入が極めて限られており、以前よりも減少していることは承知しています。物資不足から直面している課題について、少しお話し頂けますか？医療活動を行う際、それは具体的にどのような形で現れているのでしょうか？

マモード教授：ある土曜日の夜、出血多量で死にかけていた8歳の子供を手術した時のことを覚えています。綿棒を要求したところ、「綿棒はもうない」と言われました。滅菌手袋や滅菌ドレープがない状態で手術をしなければならない場面が度々ありました。基本的な医療器具さえ不足していたのです。私が切断手術を行った患者の中には、術後の鎮痛剤としてパラセタモール（アセトアミノフェン）を服用するしかなかった人もいました。

そのような医療支援物資は国境で足止めされ、持ち込みを許可されませんでした。私用を除き、医療機器の持ち込みは一切認められませんでした。ある患者のために甲状腺の薬を持ち込めないと頼まれましたが、できませんでした。これは意図的な政策です。今年前半は医療チームが一部の医療機器を持ち込めたと聞いていますので、状況は変わっています。ですから、これは医療用品に対する意図的な制限だと私には思えます。

石鹸やシャンプーといった基本的なものさえ持ち込みが許可されていません。ウジが湧いている傷をどれほど多く目にしたか分かりません。同僚の1人は、集中治療室で子供の喉からウジを取り出しました。手術室にはハエが飛び交い、傷口に止まっていました。それはぞっとするような状況でしたが、これはイスラエルによる意図的な選択であり、決して偶然ではありません。

Q11 ローラ・カーク＝スミス：そうした困難を踏まえ、滅菌や感染対策にはどのように取り組まれましたか？

マモード教授：できる限りのことをするだけです。しかし、私たちの患者の多くは - おそらく大多数でしょう、正確には分かりませんが - 手術自体は乗り切っても、その後の感染症で亡くなっていました。

その病院の集中治療室で働いていた30代の医師がいました。彼はA型肝炎にかかりました。これは衛生状態の悪さが原因でなる病気です。これにはワクチンがあるので、私は接種済みでしたが、彼にはワクチン接種の機会がありませんでした。彼は体調を崩し、自身のICU患者となってしまいました。適切な環境であれば受けられた治療を受けられず、彼は自身のICUで亡くなりました。私たちは彼の搬送を要請しましたが、実現しませんでした。

Q12 議長：あなたが述べている状況は、まるで中世のようですね。

マモード教授：はい、間違いなくそうです。私がそこにいた当時、ナセル病院はおそらくガザで最も優れた病院でした。他の殆どの病院には、ナセル病院のような施設や設備がなかったのです。ナセル病院は、病院としてかろうじて機能している状態で、多くの医療スタッフが拘束されたり殺害されたりし、また脱出できた者は去っており、経験の浅いスタッフによって運営されていました。例えば集中治療室は、基本にごく僅かな訓練しか受けていない一般医が運営していました。設備もスタッフも施設もないため、こうした状況による人命の損失や苦しみは甚大でした。

病院へのアクセスでさえ、私が滞在中に、負傷者を搬送しに行く救急車が銃撃され、フロントガラスに複数の弾痕が残っていました。救急車が標的とされた事例は 163 件以上記録されていると聞いています。そのため、多くの人々が救急車を利用できませんでした。人々は負傷者を担いで運び込んだり、時にはロバの荷車に乗せて運びました。大量負傷事故が発生すると、救急部門は満員状態になりました。患者は血の海の中で床に横たわっており、誰が生きているか、治療を受ければ生存の見込みがあるか、少し待てる状態にあるかを判断しなければならない状況でした。それはほぼ毎日でした。そして、そのような状況は既に非常に長い間続いています。

議長：お話しいただいた内容は衝撃的ですが、こうした証言をして頂けて感謝しています。

Q13 アリス・マクドナルド：有り難うございます。非常に衝撃的な証言です。冒頭で、診察した患者の約 60% が女性と子供だったとおっしゃいました。女性や子供への影響について、もう少し詳しくお話し頂けますか。例えば、おそらく妊婦も搬送されてきたと思いますが、特にこれら 2 つの脆弱なグループに関し、どのような課題に直面されていたのでしょうか？

マモード教授：今のガザで妊娠しているなんて、想像したくもありません。私たちは直接、出産する女性たちの対応は行っていませんでした。それは別の場所で対応されていたため、その経験がありません。爆風による負傷、腹部や胸部の損傷、手足の切断、頭部外傷を負った人々がいました。また、狙撃で負傷を負った子供たちも数多く見受けられました。頭部に一発の銃弾が命中しているだけで、他に怪我がないケースもあり、それは明らかにイスラエルの狙撃兵に意図的に狙われたものでした。そのような状況が連日続いていました。

Q14 アリス・マクドナルド：あなたが今お話しされているような恐ろしい事態 - 先ほど言及されたドローンによる標的攻撃や狙撃手についてですが - それらをまとめて把握する方法はありますか？今ここで私たちにこの証拠を共有しているのと同じように、現地でも様々な方法で、様々な人々に同様の共有されていたのでしょうか？

マモード教授：ガザにいる人々との共有という意味ですか？

議長：記録されている内容についてお尋ねですか？

Q15 アリス・マクドナルド：もし可能であれば、ということです。

マモード教授：実際には難しいですね。救急部門は、大抵の場合、大混乱状態です。もはや医療記録など存在しません。文字通り、人々が何かを書き込んだ小さな紙切れがあるだけで、「切断手術を行った。退院後、1 週間後に再来院のこと」といった内容、それだけです。入院記録は残していたと思いますが、特定の外傷の原因に関する詳細な統計を収集するのは困難です。

ご存知かもしれませんが、2024 年 9 月に英国の医師と看護師 32 名からスターマー首相宛てに書簡が送られました。彼らは全員ガザで働いており、中には私と時期が重なった人もいました。また、10 月には米国の 99 名からもバイデン大統領宛てに、全く同じ内容の書簡が送られています。これは驚くことではありません。上層部の政治家たちは、このような状況を十分に認識しているはずです。

Q16 サム・ラッシュワース：紛争 - 銃弾、爆弾、破片など - によって直接的に負傷や苦痛を負った人々と、そうした環境下での生活から引き起こされた病気、飢餓、その他の疾患に苦しむ人々との間で、どのようなバランス

が見られましたか？

マモード教授：それらの問題を抱える人は大勢いました。外科医として、私はそうした患者を間接的にしか目にしませんでした。例えば、毎日数人の患者が糖尿病性ケトアシドーシス（インスリンの極端な不足により高血糖と血液の酸性化が急激に進む重篤な急性合併症）を患って救急外来に運ばれてきました。彼らはインスリンを入手できない糖尿病患者であり、その結果、糖尿病性昏睡に陥っていたのです。英国でそのような事態が起こるのは、1930年代や1940年代に遡らなければなりません。インスリンは冷蔵庫で保管する必要がある薬ですが、テント生活の場合、どうやって保管するのでしょうか？そもそもどうやって手に入れるのでしょうか？

このような例は数多くありました。プライマリケア（初期診療）に従事していた同僚たちは、特に子供たちを中心に、膨大な数の感染症を報告していました。確かに栄養失調の子供たちも目撃しましたが、その状況は今やますます悪化していると思います。そしてもちろん、いわゆる「通常の」疾患も全て存在していました。大腸癌の患者にも遭遇しました。手術は受けましたが、化学療法も放射線治療もないため、根治的手術ではありませんでした。つまり、この戦争前に存在していたあらゆる付随的な医療サービス - 優れた設備と優秀なスタッフを擁する素晴らしい病院が幾つかあったのですが - は全て失われてしまったのです。それらは破壊されてしまっており、戦争による計り知れない莫大な代償が生じているのです。

2024年7月に『ランセット』誌に掲載の論文では、確認された死傷者数、瓦礫の下に埋もれていると推定される人々、そして戦争の結果として他の病気で亡くなった人々を全て含め、控えめに見積もっても18万6,000人の死者が出たと推計されています。これは6月時点の数字で、私の見立てでは、現在は20万人を超えているでしょう。

Q17 モニカ・ハーディング：拘束され殺害された同僚についてお話しになりましたが、病院で一緒に働いていた同僚の人数について、おおよそどのくらいだったか教えていただけますか？

マモード教授：パレスチナ人の同僚のことですか？

モニカ・ハーディング：はい、現地の同僚です。

マモード教授：かなりの数いました。推測するに、病院には20~25人の医師がいたと思います - それ以上かもしれません、正確には分かりませんが。しかし、戦争前はもっと、もっと多くの医師がいました。私が一緒に働いていた医師の多くは北部から逃れてきた人たちで、南部の医師不足を補っていました。

Q18 モニカ・ハーディング：救急車が標的にされたことについてもお話しされていましたね。安全だと感じていましたか？

マモード教授：2,000ポンド（約1トン）の爆弾が病院に直撃する可能性は低いだろうという点は、比較的安心していたものの、ドローンの脅威を懸念して病院を離れることはできませんでした。病院への出入りは、おそらく最も神経をすり減らすことでした。私たちは装甲車による国連の護送隊で出入りしていましたが、その途中でイスラエル軍から5回も銃撃を受けました。これらの護送隊は極めて厳重に組織されています。イスラエル軍から指定された所定のルートを通ります。出発前、移動中、到着後に無線連絡があり、イスラエル軍は護送隊の存在と位置を把握しています。それにもかかわらず、私たちが同乗中に5回も銃撃を受けました。現地にいる間、

私が最も恐れていたのは、イスラエル軍に殺されることでした。

Q19 議長：護送隊が銃撃された際、それは単独の狙撃兵によるものだったのでしょうか、それとも -

マモード教授：いいえ、イスラエル軍が部隊として接近し、意図的に発砲したものです。

Q20 議長：国連の護送隊に対してですか？

マモード教授：はい。私が現地にいた時の最後の護送隊への銃撃は、確か8月末頃だったと思います。WHOのスタッフ数名が被害に遭ったと報告されています。これらは装甲車ですので、窓には4、5か所の弾痕が見て取れます。ちょうど人が座っていたであろう場所にです。私たちには非常に明確な指示が出されていました。「出発時にはドアをロックする。イスラエル軍が銃撃し、車外に出よう命じても、ドアのロックを解除してはならない。車から降りてはならない」。これは国連の車列で - 側面に「UN」と大きな文字が書かれています - 週に2回、様々な組織の援助要員約30~40人を送り迎えしています。膨大な数の援助要員が標的とされており、そのことは、きちんと記録されています。繰り返しになりますが、私の考えでは、これは意図的なものです。

Q21 ブライアン・マシュー：ドローンに関する具体的な質問をしてもよろしいでしょうか？ドローンが人々に向けて発砲する場合、それは単発射撃なのか、それとも機関銃によるものなのでしょうか？個々の人物を狙って一発ずつ撃っているのでしょうか？実際にはどのような状況なのでしょうか？

マモード教授：幸いなことに、私はドローンが発砲する現場の近くには一度もいなかったため、搬送されてきた人々を診察した際の状況についてしかお話しできません。患者には、銃創が1ヶ所だけの場合もあれば、2、3ヶ所ある場合もありました。1、2回目撃した非常に不気味なパターンとしては、胸の両側に3、4発、さらに股間にも同様の弾痕があるケースがありました。これは、自律型あるいは半自律型のドローン攻撃の明白な証拠だと私たちは皆考えました。なぜなら、人間がオペレーターでは、あれほどの精度であれほど迅速に発射できないからです。そのようなドローンが使用される予定だったという記録は存在します。4月にイスラエルの『ハアレツ』紙で報じられていました。これは特に不穏な事象でしたが、私たちが目にしたドローンによる負傷の殆どは、1発、2発、時折3発の銃弾によるものでした。

これらのドローン弾は、ある意味では銃弾よりも破壊力がありました。もし胸に銃弾を受けた場合、心臓を外して反対側へ抜ければ、肺を貫通して背中から出ていくこともあり、おそらく生存可能でしょう。しかしドローンのペレット弾は、体内に入り込んで跳ね回り、複数の損傷を引き起こします。先ほど詳しく説明した7歳の男子がいました。彼の体には脇腹に貫通創がありました。彼は腹部が胸から飛び出した状態で搬送され、肝臓、脾臓、腸、動脈に損傷を受け、単一の貫通創から非常に広範囲な損傷が生じていました。彼はその状態から1週間後に退院し、一命を取り留めましたが、彼が今も生きていのかどうかは分かりません。

議長：ご尽力いただき有り難うございます。

Q22 ゴードン・マッキー：委員会に出席して頂き、有り難うございます。あなたの証言を伺うことは、極めて貴重なことです。私が国会議員になってからの4ヶ月間、あなたが語っているような、これほど胸が張り裂けるような話を聞いたことはありません。本当に感謝しています。答えるのが難しい質問だと承知していますが、現在国境検問所に滞留している支援物資によって、どれだけの命が救われ、守られると推定されますか？文字通り阻

止されているその支援物資が、現地でどのような違いをもたらすとお考えですか？

マモード教授：それは極めて大きな違いをもたらすでしょう。医療支援がこれほどまでに制限されている紛争地域は、私がこれまで経験した中でありませぬ。物資の搬入を許可せず、医療施設を爆撃し、救急車を攻撃し、医療従事者を殺害しているのです。もしそうしたことが一切起きていなければ、数万人の命が救われたはずでせう。戦争に従事するいかなる軍隊も、双方の民間人に対する責任があるはずでせう。しかし、現地ではその正反対の事態を目の当たりにしています。

Q23 ゴードン・マッキー：ご自身や同僚たちの経験から、ここは他の紛争地域とどれほど異なるのでしょうか？ウクライナの例を挙げられましたが、医療の観点から、通常の紛争地域とはどれほど異なるのでしょうか。

マモード教授：あらゆる点で全く異なります。これは、国連や WHO で働く人々、医師、関係者全員から繰り返し語られていたテーマだと思います。国際赤十字委員会も野戦病院を現地に設置していました。通常、紛争地域では、民間人は移動してその場から逃げることができます。長距離を歩いて苦難を強いられることもあるでしょう。しかし、ガサの状況は、ロンドン市を封鎖して「出てはいけぬ」と言い、その後何ヶ月も爆弾を投下し、その上で、全ての医療施設を閉鎖するのと同様でせう。まさにそれが起きているのです。それが続いていることは驚くべきことだでせう。私たち全員が、これが続くなどとは信じがたいと感じました。

Q24 議長：あなたが見たものをジェノサイド（集団虐殺）だとお考えですか？

マモード教授：私は国際人権法の専門家ではないため、厳密な定義については語れませんが、私たちが目撃した状況を鑑みると、この現場を表現する他の言葉を見つけるのは困難だでせう。パレスチナの人々は、まさに自分たちにそのようなことが起きていると確信し、逃げ場もなくただ死を待つしかないという諦めの感情を抱いています。ですから、一言で言えぬば、そうだでせう。

Q25 議長：イスラエル側は、民間人を標的にしておらず、人々に別の地域へ避難するよう警告するビラを投下していると主張しています。これについてどうお考えですか？

マモード教授：まず、彼らはグリーンゾーンを標的にしていないはずだでせうが、私たちの犠牲者の大半はグリーンゾーンから出ており、その多くは避難も警告も一切なく、急に爆弾を落とされたただけだでせう。大通りの救急部門から 5 メートルほどの場所で車両が爆破されましたが、私たちには何の警告もありませんでした。もし私が何かを買いに道路を横断していたら、そこで命を落とすことだでせう。

避難命令に関しては、通常、すべての携帯電話に次のようなメッセージが送信されます。「〇〇地区、避難命令」。つまり、携帯電話を持っていて、充電もされて正常に動作していれば（テントの中にいるとなかなか難しい）、助かる可能性があります。しかし、爆撃は通常、数分後、数時間後に始まります。ある朝、私と非常に親しく働いていたパレスチナ人医師の 1 人と病棟回診をしていた時、彼は突然携帯電話を見て、行かなければならないと言い、病院を飛び出し、妻と 2 人の幼い子供たち（末っ子は 1 歳半）と父親が暮らしているテントを探しに行きました。彼らはテントを畳み、いつ爆弾が落ちてくるか分からないという不安を抱えながら、何キロも歩いて避難先を探さなければならぬませんでした。これが、ガザの全員にとっての日常の現実なのです。

Q26 モニカ・ハーディング：日々の現実や、子供たちが標的にされていること、医療従事者が殺害されているこ

と、そして民間人が「いずれ死ぬだろう」と諦めを感じていることについてお話し頂きました。彼らが国際社会についてどう考えているか、つまり、私たちに何ができるかについて何か考えているのか、その様子を教えてくださいませんか？

マモード教授：先週、私が何人かの英国国議員と話をしたということを知り、彼らはとても喜んでいました。現地の同僚たちに「私はこうした活動をしているが、大きな変化をもたらすかは分からない」と伝えたところ、彼らは「小さな一歩でも」と返してくれました。パレスチナの人々は国際社会に見捨てられたと感じていると思います。それでも何かが起こることを期待している人もいます。人々が助けに来て、味方になってくれるという事実を、彼らは非常に感謝していたと思います。それが私が現地を訪れた主な理由の1つでした。

Q27 デビッド・リード：ご自身の経験を語る勇気を持って話していただき、有り難うございます。それがどれほど難しいことか、私は理解しています。標的の選定に関する点に戻りますが、イスラエル軍は何か脅威を察知していたのでしょうか？ ハマスはその地域にいたのでしょうか？ ハマスの居場所は確認できましたか？

マモード教授：笑ってしまうのですが、これは私が現地に着いてすぐに尋ねた質問そのものなのです。「ハマスは病院の中にいますか？ 病院にいたことはありますか？」と尋ねたところ、彼らはただ私を笑いました。「ハマはいない。トンネルに隠れている戦闘員は数人いるが、ハマはいない。病院にハマがいたことは一度もない」と言われました。誰もがハマスを憎んでおり、街中でも病院の中でも、その証拠を目にすることは一度もありませんでした。私は以前にも紛争地域に行ったことがあります。通常、戦闘員が入ってくる時は銃を持って、あるいは銃を持った仲間と一緒にやってきます。しかし、そのような光景は一度も見かけませんでした。私たちは病院内のどこへでも自由に行き来することが許されていましたが、地下にトンネルがあったかもしれません - 誰にも分かりませんが - もしハマスが病院に出入りしていたなら、それはかなり明白だったでしょうし、おそらく病院のスタッフによって追い出されていたはずで

彼らが皮肉な笑みを浮かべて語っていたことを覚えています。2月にナセル病院がイスラエル軍に攻撃された際、イスラエル軍は多数のスタッフを殺害し、患者たちと共に集団墓地に埋めたという話でした。これはきちんと記録されています。彼らは、同僚の1人が連行され、他の数人と共に拘束された後に殺害されたと言いました。殺された同僚は無神論者でハマスを憎んでおり、戦争前からそのことを声高に主張していたそうです。彼はイスラム教もハマも愚かだと考えていましたが、イスラエル軍は彼を連れ去り、殺害しました。これが今起きていることです。私の見るところ、ガザでは誰であろうと、パレスチナ人である以上、標的となるのです。

Q28 デビッド・テイラー：ローラとゴードンの質問に続き、現在の状況下において、現時点で最も優先的に確保すべき医療物資は具体的にどのようなものだとお考えですか？

マモード教授：基本的な医療物資です。ガーゼ、ガウン、手袋、抗生物質、鎮痛剤といった、十分な量の基本的な物資全てです。これらは不可欠ですが、それ以外にもあらゆる補助的な物資が必要です。患者に挿入するカテーテルや、専門的な画像診断技術なども必要です。私はキャリアの大半を移植外科医として過ごしてきたため、透析についてはかなり詳しいのです。毎朝、病院内の宿泊施設のバルコニーから、向かいにある建物を見ていました。私の理解では、そこはクウェート人が建設した新しい透析センターだったようです。その建物は100メートル先にありました。建物は焼け落ちていましたが、砲弾の被害も弾痕もなく、銃撃戦もなく、イスラエル軍が侵入して焼き払ってしまったのです。その結果、現在、実質的にガザ南部全域をカバーする透析装置は6、7台しかありません。腎不全で透析を受けられなければ死に至ります。私の考えでは、これは到底容認できません。

Q29 ノア・ロー : こうした痛ましい体験を共有してくださり有り難うございます。先ほど、イスラエル軍が保有する情報についてお話しになりました。医療従事者として標的とされた点について、そうした攻撃の背後にある動機を察知したことはありますか、それとも、それはあなたにとってはあまりにも現実離れした遠い話なのでしょうか？

マモード教授 : 外国人援助要員が標的とされた件について言えば、例えば1月のMAP ゲストハウスへの爆撃がありました。当時、私と一緒にいた外科医の1人がその場にいました。午前6時、敷地内のゲストハウス前にミサイルが着弾しました。数人が負傷しましたが、幸いにも死者は出ませんでした。それらのゲストハウスは全てイスラエル軍のコンピュータに登録されており、「安全な家屋」として指定されています。したがって、これは意図的な攻撃であり、その目的は援助要員の来訪を思いとどまらせることだったと私は推測しています。これは、米軍の輸送隊への銃撃事件と同じことだと思います。

病院や救急車などへの攻撃に関しては、私の考えでは、集団的懲罰以外の何物でもありません。これは本質的に、人口の大部分を一掃しようとする一貫した試みに他なりません。人々と話をしていると、繰り返し感じるのは、屈辱と攻撃性です。ある夜、私はある少女の手術を行いました。彼女はその後もなく亡くなりました。彼女の傷のひどさは、言葉では到底言い表せません。私が手術を終えた後、眼科医が彼女の左目 - もはや肉片と化していた - を取り出そうとしていました。彼は私より5歳ほど年上の、愛想が良く穏やかな男性でしたが、処置をしながら呟いていました。「2月に奴らが来た時さ、まだここにいた俺たち全員を捕まえて、両手を後ろに回して縛り上げ、頭にはフードをかぶせ、10時間も立たせ続け、殴り、アラビア語で罵倒したんだ - 屈辱を与えたんだよ」その後、連れ去られた者もいれば、殺された者、拘束された者、解放された者もいたのです。

私たちと一緒に働いていた医学生が、女性たちが全員一列に並べられ、下着姿になるよう命じられ、その状態で何時間も立たされた様子を語ってくれました。特にその文化圏においては、これは極めて、極めて屈辱的なことです。彼らが彼女に「行っていい」と言われた時、服は返されず、その姿のまま通りを走らなければならなかったのです。彼女には極めてトラウマとなる経験となりました。最悪の状況下で、ただ職務を全うし、人々を助けようとしている人々に対する攻撃、屈辱、そして暴行という一貫したテーマが存在します。

Q30 議長 : あなたは「彼ら」が医療従事者たちにこうしたことをしたと述べました。誰のことですか？

マモード教授 : イスラエル軍です。

Q31 ローラ・カーク＝スミス : ナセル病院にいたとおっしゃっていましたね。

マモード教授 : はい。

ローラ・カーク＝スミス : ガザ北部での状況は、その凄惨さから今、ますます注目を集めています。同国北部で活動しようとしている医療関係者とは、何か連絡を取り合いましたか？

マモード教授 : いいえ、ただ、私たちと同じ宿舎に滞在していたヨルダン人医師のグループがいて、そのうち3人が「北部に入ってみようと思う」と言っていたことくらいです。彼らは、今や事実上の国境となっている場所で追い返され、入ることが許されませんでした。しかし、それは8月のことで、当時は今とは全く状況が異なっ

ていました。

Q32 アリス・マクドナルド：子供たちへの影響について話を戻しますが、他の紛争では、子供たちが医療避難により他地域へ送られ治療を受けることができていました。あなたが勤務していた病院では、そのような措置を提唱し、実際にそのような事例を目にしましたか？もし行われていなかった場合、それは今後さらに推進できることだと思いますか？

マモード教授：それは解決策にはならないと思います。医療目的で避難できる人はごくわずかです。もしそれを実行するとすれば、必要とされる人数は文字通り毎月数千人に上るでしょう。多くの統計で把握されていないのは、両足を吹き飛ばされた子供たち、つまりその結果として継続的な問題を抱えている人々です。私が現地を離れた際、WHOは病院敷地内にテント村を設置しようとしていました。戦争で手足を失った人々の義肢製作に対応するためです。その数は膨大です。現在ガザで用いられている略語の一つに、「負傷した子供で、生き残った家族がない (wounded child no surviving family)」という意味のものが存在します。ミサイル攻撃で搬送されてくる子供たちの多くは、親族全員が殺害されています。そのうち誰かが現れて、「私はいここです。ガザの別の地域から何とかやってきました」と言うのです。子供たちに起きていることは、あまりにも悲惨です。

議長：マモード教授、本日ここにお越し頂き、またこれまでのご尽力に対し、私個人および委員会の感謝の念を言葉に尽くせません。日夜同じ活動に取り組んでいる同僚の方々にも、私たちの深い感謝をお伝え頂ければ幸いです。あなたが私たちに語り、私たちがそれを聞き、そしてあなたの重みのある証言に基づいて行動するために全力を尽くすことを、彼らに伝えてください。あなたが雄弁に語ってくださったこの恐ろしい状況を変える力を持つすべての人々に、この証言が確実に届くよう努めます。お時間を頂き、誠に有り難うございました。心より感謝申し上げます。

マモード教授：有り難うございます。

Q33 議長：リモートで参加している同僚を待つ間、サム・ローズとローハン・タルボットに挨拶を。ローハン、以前にも私たちの前で証言してくれましたね、また来て頂いて有り難うございます。あなたの9ヶ月前の記録と比べ、状況がどのように変化したかを知るとは、とても有益だと思います。サムとローハン、自己紹介と今日代表している組織の紹介をお願いしますか？

サム・ローズ：こんにちは。今日は概要を説明する機会を頂き有り難うございます。私の名前はサム・ローズ。UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)を代表してここにいます。

Q34 議長：UNRWAは実際には何をしている組織なのですか？

サム・ローズ：UNRWAは、ガザ、ヨルダン川西岸、レバノン、シリア、ヨルダンで、600万人のパレスチナ難民とUNRWAに登録している人々に教育、医療、社会サービス、人道支援を提供しています。UNRWAは75年間活動しており、その間に250万人以上の子供たちを教育してきました。これらの子供たち自身が、その後、中東の他の地域、特に湾岸諸国において、広く教育に携わっています。UNRWAは何万人もの医師、医療従事者、専門家を輩出し、イスラエル・パレスチナ紛争の公正で持続的かつ包括的な解決がなされるまで、パレスチナ難民へのサービスと保護を提供し続けることを義務付けられています。

Q35 議長：私はよく、UNRWA を地方自治体のようなものと表現します。それは正しい表現でしょうか？

サム・ローズ：おそらくそうだと思います。地方自治体であることに伴う欠点は全てあります。提供するサービスの種類に関しては、教育システムと医療システムを運営しています。私たちは難民キャンプを運営しているわけではありませんが、難民キャンプ内で自治体のようなサービスを提供しています。

議長：それは下水道のようなインフラですか？

サム・ローズ：下水道、浄水、給水、排水などのサービスに加え、社会サービスもあります。何百人ものソーシャルワーカー、看護師、衛生労働者などがいます。UNRWA と地方自治体の大きな違いは、少なくとも私たちは提供するサービスから収入を得ているのではなく、主に国連加盟国の支援国からの拠出金に依存していることだと思います。

Q36 議長：有り難うございます。エミーナさんとネバルさんにもお越しいただき、大変嬉しく思います。ネバルさんも1月だったと思いますが、お話し頂きました。まず、ローハンさん、ご自身と代表されている組織について教えていただけますか？

ローハン・タルボット：正直なところ、このような場で、話をする必要がなければいいと思っています。ローハン・タルボットです。パレスチナ人医療支援団体（MAP）で、アドボカシー・キャンペーン部長をしています。MAP の仕事を知らない方のために説明すると、私たちは人道支援・開発機関で、40年前にレバノンで活動を開始し、パレスチナ難民を支援して以来、パレスチナ占領地域で活動しています。ガザだけでなく、ヨルダン川西岸やレバノンでも、主に人道支援活動に従事しているパレスチナ人の同僚がいます。

Q37 議長：エミーナさん、自己紹介とあなたが働いている組織の紹介をお願いします。

エミーナ・チェリモヴィッチ：私は、イスラエルやパレスチナを含む世界 100 カ国以上で人権の進展を監視する国際的な非政府組織であるヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）で、障がい者権利部門の副部長を務めています。私たちには、障がい者の権利に特化した専門部署があり、そこで働いています。

Q38 議長：あなたとあなたが代表を務める組織について少し教えていただけますか？

ネバル・ファルサフ：パレスチナ赤新月社（PRCS）は、被占領パレスチナ地域における主要な救急医療サービス提供者です。私たちは、病院、医療拠点、さらにはガザ地区の野戦病院を通じて医療サービスを提供しています。特に、ガザ地区全域で救急医療サービスを提供しています。また、人道支援の配布、国内避難民コミュニティのためのシェルターの設置、現在進行中の戦争の影響を受けた子供や女性への心理社会的支援も行っています。それに加えて、リハビリテーションサービスも提供しています。障がい者と協力し、国内避難民コミュニティの意識を高め、感染症やその他の緊急課題から身を守るためのコミュニティ活動も行っています。

議長：各委員から個別に質問があります。テーマ毎に分けましたが、皆さんは自分に向けられていない質問に追加したいことがあると思います。その場合は手を挙げてください。

Q39 モニカ・ハーディング：今日は有り難うございます。この質問は、UNRWA のサムへ。時間は 2024 年 1 月

に戻るのですが、UNRWA スタッフがハマスと共謀しているという疑惑を受け、主要国が資金提供を停止した影響についてです。その長期的な影響はどのようなのでしょうか？

サム・ローズ：影響はとても甚大でした。イスラエル政府が疑惑を発表した時には、約 19 カ国が資金提供を停止していたと思います。英国もその中に含まれています。数週間から数カ月の間に、米国を除く全ての政府が出資を回復し、再開しました。そのため、資金面と政治面での支援は、一国を除いて、全支援国を回復しました。もちろん、資金を回復しなかった支援国は UNRWA の最大支援国です。通常の年では、米国は UNRWA プログラム運営資金の約 30%を提供します。私たちは通常、5つの活動分野で年間 10 億～15 億ドルを使っています。

どの組織でも、提供されるはずの資金を失うとショックです。支援のために購入しなければならない物資の不確実性を考えると、管理・計画能力にダメージを与えます。特に、当時は飢饉の危機に瀕していました。さらに、人員配置や職員の給与を計画する能力にも困難が生じます。UNRWA が活動分野で行っていることの大部分は、スタッフを介して行われているので、支出の 80%は人件費です。ある月から次の月までの資金が来るのか来ないのかわからなければ、労働力の不安や不確実性も増大し、計画を立てることは非常に困難になります。

そのため、特にガザではあらゆる困難が生じました。つまり、UNRWA に割り当てられた/予算に計上された資金が、他の組織に行くことになったのです。これは、人道支援コミュニティがガザの住民のニーズを満たすには良いことです。しかし、UNRWA が縮小され、その役割が損なわれ、他の組織を通じてこの支援を提供することが、必ずしも住民の救命ニーズを満たす最も効率的な方法ではないという懸念も生じました。

Q40 モニカ・ハーディング：予算の大部分はスタッフの人件費だとおっしゃいましたね。そのスタッフは解雇されたのですか？その間、彼らに何があったのですか？

サム・ローズ：いいえ、解雇されたわけではありません。ただ、一度に 1 ヶ月以上の給与のための資金を保証することはできませんでした。つまり、上級管理チームの努力の大部分は、資金を調達することに費やされたのです。つまり、資金を停止していない支援国がすでにコミットしていた資金を前倒しにして、それらの資金を支援国の予測に反映させようとしたのですが、英国も知っているように、これらのことは必ずしも容易ではありませんでした。これらは財務省によって非常に綿密に管理されているからです。

同時に、私たちは、資金提供停止支援国に対して、UNRWA が正しい方向に進んでおり、申し立てへの対応と解決に向けて、可能な限りの措置を講じていることを確信してもらうため、組織一丸となって取り組まなければなりません。つまり、資金調達であると同時に、別の意味での評判管理やリスク管理も行っていたのです。

Q41 ゴードン・マッキー：サムに質問です。イスラエル議会で可決された UNRWA への禁止令についてお聞きしたいと思います。モニカが質問したように、禁止令が UNRWA のスタッフだけでなく、支援を必要としている人々に提供できるサービスに与える影響を評価して頂けますか？

サム・ローズ：双方にとって、その影響は壊滅的なものになるでしょう。UNRWA ほど、現在ガザでサービスを提供するための規模、範囲、資源、資金を持っている団体はいません。私たちは多くの点で、この戦争前よりも多くのことをしています。戦争前、120 万人に食糧援助をしていました。現在はそれを 190 万人に実施しています。UNRWA のシェルターに登録されている何十万人もの人々を支援しています。これらのシェルターは以前は学校だったものをシェルターに変えたものです。今回の戦争のためだけでなく、過去の戦争にも対応するための

ものです。なぜなら、ガザの子供たちの現実は、過去 20 年間、戦争に囲まれた子供時代だったからです。

私たちが提供しているシステムや公共サービスの中には、より大きな影響を受けるものもあるでしょう。先ほど、医療、衛生、固形廃棄物管理、そして他の組織では簡単に、または迅速に対応できない幅広い公衆衛生サービスに関連して、その幾つかを説明しました。私たちは、単に資金を他の組織に振り向けることについて話しているわけではありません。これらは、数十年にわたって発展してきた保健システムや公衆衛生システムです。それが今、危険に晒されています。そのため、人々が今のような不衛生な生活をしている環境では、ほんの数ヶ月前にポリオが確認されたように、感染症が再発するリスクが非常に高くなります。

UNRWA のスタッフにとっても、大きな不確実性が生じます。これは、ガザ、東エルサレムを含む西岸地区、南レバノンの一部 - これらの地域では、イスラエルの国会（クネセト）法案が文字通り適用されれば、UNRWA の活動能力も停止される可能性がある - だけでなく、スタッフ全体にも影響が及びます。それには 2 つの理由があります。つまり、1 つは、これが彼らの問題 - パレスチナ問題 - にどのような意味を持つかという点であり、ガザやその他の地域において私たちが活動する際に拠り所としている、合意された政治的枠組みや国際法の枠組みから逸脱してしまうということです。もう 1 つは、スタッフ自身の差し迫った将来に関するものです。約 3 万人のスタッフのうち、ガザには 13,000 人、ヨルダン川西岸には 3,000 人がいます。これら職員が仕事をやめ、私たち年金基金に相当するものから資金を引き出さなければならなくなれば、UNRWA 全体が本当に危険に晒されることとなります。また、UNRWA への支援国の資金調達決定にも影響を与え、職員がその機能を継続することがますます困難になる可能性があります。

Q42 ゴードン・マッキー：それを緩和するために取ることができる措置はありますか?信じられないほど難しいことは明らかですが、この法案が可決されてから UNRWA が行ってきたことの概要を教えてくださいませんか?

サム・ローズ：まずは、提言を行っています。UNRWA は国連総会の機関であるため、その負託の変更は国連総会を通じて行われるべきです。私たちは、管理機関を通じて国連総会の最高レベルで提言し、加盟国に対して、この法案を実施しないようイスラエル政府に影響力を行使するよう主張しています。私たちは、UNRWA の活動能力に何らかの変更があった場合にどのような影響があるかを理解するために、他の国連機関と協力し続けていますが、現時点では詳細な危機管理計画に関与する立場にありません。第 1 に、もしそうすれば、国連および国連憲章の原則に反する決定を助長すると見られかねないからです。第 2 に、UNRWA が提供するサービスの種類を考慮しています。食糧援助の提供は、理論的には他の国が引き継ぎますが、私たちが運営している教育・保健・固形廃棄物管理システムなどのシステムは、90 日間で引き継ぐことができるものではありません。

Q43 議長：このイスラエルの決定は、私を困惑させています。なぜなら、占領国は民間人に対して基本的なサービスを提供する義務があり、UNRWA は実際にそれを提供しているからです。イスラエルの政治家たちは、これらの法的サービスをどのように提供できるかについて議論していますか?

サム・ローズ：私の知る限りではありません。国際法と占領国の責任に従ってこれらのサービスを提供することがイスラエルの責任であることは、最近の国連事務総長による指摘を含め、イスラエル政府に対して明確に伝えられていますが、その方向に向けた動きは、少なくとも現時点では見られません。

Q44 ノア・ロー：MAP のローハンと PRCS のネバルにお尋ねします。あなた方の組織で、私たちが感じる UNRWA の空白をどの程度埋めることができるのでしょうか?

ロハン・タルボット：それは不可能です。MAP のようなパレスチナ人のための医療援助組織だけではありません。人道セクター全体の立場は、私たちがそのギャップを埋めることはできないということです。

ここには2つの問題があります。1つは、UNRWA はガザの人道システムのバックボーンであり、その存在は物流 - 私たちが活動に依存している燃料等の供給 - や、様々な支援の面だけではないということです。UNRWA の診療所が閉鎖されれば、その対応は私たちの能力を遙かに超え、他のいかなる機関、あるいはそれらの機関の総力を合わせても対応しきれない事態となるでしょう。すでに人道的に惨事となっていますが、それが起こればシステム全体の崩壊を招くことになります。

サムが先程述べたように、我々は緊急時対応計画に意識を集中させることについては極めて慎重でなければなりません。当然ながら、あらゆる可能性を常に検討し続ける必要はありますが、私たちの第1かつ最優先の課題は、UNRWA を保護し、いかなる形態であれその解体を防ぐことです。なぜなら、UNRWA が支援する人々のニーズを満たすような、現実的な代替案は、近い将来においても長期的な将来においても存在しないからです。

ネバル・ファルサフ： 私たちパレスチナ赤新月社（PRCS）も同じ立場です。UNRWA が撤退した場合に生じる空白を埋められるような、国内・国際的な組織は存在しません。それを行うためのインフラや手段を保有する組織も存在しないため、UNRWA の廃止は、ガザ地区の民間人および人道支援活動にとって、間違いなく壊滅的な結果をもたらします。これには、援助物資だけでなく、燃料や生活必需品から救急医療（EMS）や医療サービスに至るまで、ガザへの搬入全般が含まれます。その多くは、UNRWA が管理する物流やトラック輸送に依存しています。UNRWA は人道支援活動の基幹であり、その廃止は人道支援活動全体に影響を及ぼします。

Q45 デイヴィッド・テイラー：サム、フォローアップの質問があります。UNRWA はガザで重要な仕事をしており、英国政府が資金を回復したことは歓迎すべきことです。コロナ報告書*に関連して、UNRWA が実施した改革や変更、特に職員の審査について簡単に説明していただけますか？

記者注 コロナ報告書（Colonna Report）

2024年4月に発表された国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の「中立性」に関する独立調査報告書。元仏外相カトリーヌ・コロンナ氏が率いたチームが、UNRWA 職員のハマス関与疑惑（イスラエルが UNRWA 職員が 2023年10月7日の攻撃に関与したと主張した）を受けて調査した。UNRWA は中立性を確保するメカニズムを概ね備えていると結論付けながらも、管理能力向上、教育コンテンツのデジタル化など、管理体制の透明性向上を提言。

サム・ローズ：私たち UNRWA は全職員の名前を全受入国当局と共有しています。また、受入国ではありませんが情報を共有しているイスラエル政府にも提供しています。この取り組みは過去15年間にわたり実施しており、年2回行っています。過去15年間、それを年に2回行っています。現在もこれを継続しているほか、全ての拠点および施設の座標についても、毎日イスラエル政府と共有しています。ご存知かもしれませんが、1月27日か今年の1月末まで、提供した氏名リストに関してイスラエル当局から一度も連絡は受けていませんでした。

コロナ報告書が公表されましたが、そこには高い基準と強固な体制 - おそらく国連機関の中で最も強固な体制 - が示されています。私たちは、ガザ地区やその他の活動地域において依然として流動的かつ困難で、政治的な駆け引きが渦巻き、不安定な状況にある中で、こうした状況を掌握し、その状態を維持するために、さらなる措置と対策を講じてきました。

私たちは、主要支援国に対して、より体系的で定期的な 4 半期ごとのブリーフィングを提供するために、幾つかの手段を講じてきました。これは、私たちが行っていることと現場の状況の現実についてです。これにより、どんな環境の変化があっても、何が起きているのか、常に最新の情報を得ることができます。

現在、組織内にリスク管理部門を設立する過程にあります。数年前からそうしたいと思っていましたが、リソースが不足していたため、実現できませんでした。そのため、多くの上級スタッフがこのイニシアチブに集中的に取り組んでいます。これを乗り越えたとしても、今後数年間はこの問題に対処しなければなりません。

議長：さらに詳しい情報を記録に追加したい場合は、その件についてご連絡ください。ただし、現在非常に多くの質問が寄せられていることをご承知おきください。

Q46 アリス・マクドナルド：私たちは、提供されるサービスの一部に関して代替手段がないというメッセージを非常に明確に受け取っています。先ほど、国連総会と、その傘下にある機関 UNRWA について言及されましたね。今後のスケジュールはどのようになっているのでしょうか。また、状況が変化し、禁止措置の実施可能性について、どのような見通しをお持ちでしょうか。もし英国政府が特定の局面で圧力をかけることになるとして、現時点ですらに何かやって欲しいことはありますか？

サム・ローズ： UNRWA の活動を禁止し、同機関とイスラエル当局者との接触を禁じることを目的とした法案は 2024 年 10 月 28 日にイスラエルの国会（クネセト）で可決されました。施行までの期間は 90 日間で、どの委員会であっても半年ごとに進捗状況を報告することが義務付けられていたと思います。基本的には 10 日ほど前に国連の官房長官に書簡が送られ、法律が施行されることになり、基本的には時計の針が進み始めたということになります。米国が援助物資の輸入改善のために与えた 30 日間の通知期間を見てもわかるように、これがいつ施行されるのか正確にはわかりませんが、今から 80 日間を予定しています。書簡の内容が極めて曖昧であること - 詳細として受け取ったのは文字通り数行に過ぎない - を踏まえると、それが具体的に何を意味するのかは、まだ不明です。そこで私たちは、このような機関を通じて、加盟国に対して、このことの影響と重要性、今年初めの国際司法裁判所（ICJ）の判決の結果を満たすことに関連した加盟国の義務、そして人道支援の提供を促進するイスラエルの義務を強調するよう求めています。UNRWA を解体するという決定は、完全にそれに反するものです。私たちは、英国政府と他の加盟国に対し、彼らが持っている政治的資本、つまりアドボカシーとロビー活動を、直接、安全保障理事会を通じて、そして他の加盟国との間であなたが持っているあらゆる影響力を通じて、できる限りのことをするよう求めます。

Q47 ブライアン・マシュー：医療施設について質問があります。その前に、サム、基本的な水供給とそれがどのように扱われているのかについて少し教えていただけますか？海水の淡水化を実施しているのでしょうか？それともイスラエルから汲み上げられた水を利用していますか？水はどのようにして人々に届いているのでしょうか？

議長：簡単にお答えいただけますか？

サム・ローズ：戦争前は水の供給は難しかったです。現在、ガザへの水の供給は、主に 3 つの経路を通じて行われています。イスラエルからの 3 本の送水管、海水淡水化プラント、そして UNRWA が運営する多くの井戸を含めた井戸水です。海水淡水化プラントは、燃料と供給が不足しているため、稼働できないこともありました。現在、私が理解しているのは、ガザ中央部のデイル・アル・バラにある主要な淡水化プラントは機能していると

ということです。井戸の稼働状況は、アクセス状況、燃料、物資の供給に左右されます。ジャバリアのキャンプには井戸が6つありますが、燃料不足と現場へのアクセスが困難で、ここ数週間、いずれも稼働していません。

メコロットの送水管、すなわちイスラエルからの3本の送水管について、イスラエルはこれまで、さまざまな時期にその復旧について繰り返し言及してきました。しかし、これらの送水管が復旧したとしても、紛争の激化によってインフラ自体が損傷し、かつ自治体職員が修理に到達できず - 実際、彼らは職務を遂行しようとして殺害されることが度々あり - 送水管が通っているという事実だけでは、人々が水の需要を満たせるという意味ではありません。殆ど全ての人々が避難民となっている環境では、特にそうです。ガザのどこでも、水は彼らがいる場所で人々に供給するように設定されていますが、海岸の避難キャンプに何十万人もの人々がいる場合、彼らを支える水のインフラがないので、水はトラックで運ばなければなりません。

ブライアン・マシュー：繰り返しになって申し訳ありませんが、これはかなり重要な点です。

議長：時間がありません。

Q48 ブライアン・マシュー：人々はどうやって水を確保するのですか?小さなバケツを持って行くのですか?

サム・ローズ：今のガザで子供として過ごす日々は、黄色いジェリカンやバケツを手に、給水車が通りかかる道路脇に並んで待つことから始まります。何百もの20Lサイズの燃料容器が整然と並べられている光景さえ目にします。

Q49 ブライアン・マシュー：状況を説明して頂き有り難うございます。ローハン、ガザの医療施設の現状について説明してもらえますか?

ローハン・タルボット：1月の話に戻りますが、当時私たちは医療制度の組織的解体について警告していました。その状況は今でも続いています。現在、ガザには完全に機能している病院は残っていません。36のうち17の病院が部分的に機能していますが、その「部分的機能」も、場合によっては極めて限定的なものです。カマル・アドワンについては後ほど触れますが、その中規模の病院では現在、小児科医2名と一般医1名が、1日120名以上の負傷者の受け入れに対応しています。これが、いわゆる「部分的に機能している病院」の実態です。

現在、14,000人の患者が医療避難を必要としています。これは最も重篤なケースだけです。この数字には、例えば昨年10月以前に行っていたような、通常であれば癌やその他の治療のために東エルサレムやその他の場所に移動する多くの患者は含まれていません。

民間防衛隊や救急隊については - ネバルもこの点についてお話しできると思いますが - 活動環境と被災者への到達能力の両方の点で非常に制限されています。特に北部ではそうです。ガザ北部の民間防衛隊は、燃料不足だけでなく、治安の悪化もあり、基本的に全ての活動を停止しています。治安が悪いため、救急車を走らせることも、被災者の元へ駆けつけることもできなくなっています。

そのため、医療システムは着実に崩壊しています。その崩壊は現在、北部で最も深刻で、3つの病院が非常に最低限の機能しか果たしていません。援助が届かず、医療品もないからです。幾つかの病院では、スタッフの多くが南部へ避難せざるを得なくなったり、先ほどお聞きになったように、逮捕・拘束、あるいは殺害されたりして

います。

Q50 ブライアン・マシュー：サム、薬や日常的な治療を受けずに過ごすことで、長期的な影響がありますか？

サム・ローズ：さらに多くの命が失われるでしょう。さらに多くの人々が苦しむことになるでしょう。さらに多くの子供たちが、社会に還元できる潜在能力を十分に発揮できないまま成長することになるでしょう。これは個人や家族レベルだけでなく、社会全体のレベルにも壊滅的な影響を与えます。先ほども伺ったように、4万3000人が死亡し、10万人以上が負傷しただけでなく、日常的なケアや治療を受けられずにいる人も大勢います。これには、生活習慣病や糖尿病、高血圧などを患っている高齢者や中年層、あるいはがん治療を受けている人々、さらには紛争の結果として病気になったにもかかわらず、必要なケアを受けられない人々が含まれます。例えば、ポリオによって麻痺を発症した子供たちがいます。ポリオは完治しませんが、病院に行って治療を受ければ、最悪の影響に対処するのに役立つ緩和ケアを受けることができます。そうしたケアは全て失われたか、失われつつあります。また、医療従事者自身も信じがたいほどのトラウマを経験し、苦しんでいるため、人々のニーズに応える能力 - 彼らは近年の記憶にある、いかなる事例をも凌駕する驚くべき働きを見せているものの -、そのケアを継続する能力が、著しく制約されています。

議長：エミーナ、あなたはこの議論に入ろうとしていますね。ブライアンもあなたに質問があると思います。

Q51 ブライアン・マシュー：次はエミーナに質問しようと思っていました。今日は沢山のお話を伺ったわけですが、イスラエルによるガザの病院への攻撃は国際法に違反していると思いますか？

エミーナ・チェリモヴィッチ：それが、あなたからの質問ですか？

議長：はい。

エミーナ・チェリモヴィッチ：ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）は、イスラエル軍によるガザの医療施設への攻撃（医療搬送手段を含む）は違法であると報告しています。私は、医療へのアクセスが阻害されることによる長期的な影響、および即時の影響について、すでに提起されている疑問点について言及したいと思います。私のレポートでは、イスラエル軍の空爆で負傷した12歳の少女、ラヤンにインタビューを行いました。彼女は即時かつ緊急で適切な医療を受けられなかったため、治療のために避難したエジプトに到着する頃には、傷口が重度の壊疽を起こし、脚を切断せざるを得なくなりました。ここで言及しているのは、外傷による切断で手足を失ったのではなく、適切な医療を受けるまでに数日かかったために手足を失った子供の話なのです。

長期的な影響という点では、私が最近発表したレポートによると、ハマスが主導した10月7日の攻撃以前に定期的な治療を受けていたものの、それ以降その治療を受けられなくなっている障害児や慢性疾患を持つ子供たちは、深刻な健康被害に直面していることが明らかになっています。

私が話を聞いて以来、ずっと心に留まっている別の例を挙げましょう。先天性内反足で生まれた赤ちゃんについて考えてみてください。内反足は、機能している医療制度がある場所であれば、世界中のどこでも治療可能な疾患です。整形外科医のアナ・ジラニ医師は、ガザにいた頃、内反足で連れてこられた4人の赤ちゃんを診察したと私に話してくれました。彼女は、これらの赤ちゃんたちは障害を抱えたまま成長することになるだろうと語りました。その唯一の理由は、ガザで先天性内反足の赤ちゃんにギプス固定や装具療法を提供できる唯一の施設が

破壊され閉鎖され、先天性内反足の赤ちゃんを検査できる訓練を受けた唯一の人物が殺害されてしまったからです。私が取り組んだレポートのために医師たちが繰り返し語っていたように、医療へのアクセスがないため、障害を持つ子供たちは死亡するか、あるいは障害がさらに複雑化することになってしまうのです。

Q52 サム・ラシュワース：先ほど、医療支援や基本的な医療機器の搬入が滞っているという話を伺いました。ネバルに質問です。1月に委員会に出席されてから、国境での検問の状況は改善されましたか？

ネバル・ファルサフ：1月以降、状況は悪化する一方だと思います。5月から検問所が閉鎖され、人道支援の入国に影響が出ています。イスラエルは依然として人道支援物資の搬入を妨害しています。5月以前は、パレスチナ赤新月社は数千台の支援トラックを受け入れることができていました。それは最低限の台数で、とても十分ではありません。私が言えるのは、5月以降現在まで、ラファ検問所はまだ閉鎖されているため、他の検問所を経由して65台の支援トラックしか受け入れることができていません。人道支援の受け入れを増やすどころか、現在開いている全ての検問所を経由して入ってくる支援は少なくなっています。そのため、人道状況は悪化するばかりです。医療制度も崩壊し続けています。ガザの全ての病院では、医薬品、医療用品、そして発電機に緊急に必要な燃料さえも不足しているからです。パレスチナ赤新月社では、多くの救急車が燃料不足のために何度も運転を停止しなければなりませんでした。私たちも、他の医療従事者と同様に、医薬品や医療用品の不足のために、ガザ地区の病院や医療拠点で苦しんでいます。これは深刻な問題です。

戦争は激化するばかりで、より多くの人道支援が必要とされています。その中には、医薬品に加えて食糧援助品も含まれています。支援物資は依然としてごく僅かな量しか届いておらず、必要量のほんの一部に過ぎません。だからこそ、パレスチナ赤新月社もまた、ガザの全ての地域への安全で持続的で、無制限の人道支援アクセスを求め続けています。1日に20台も30台ものトラックが入る必要はありませんが、必要なのは、十分な支援物資の搬入で、それはいかなる制限や制約もなく行われるべきです。現在ガザ北部で孤立している人々を含め、ガザ地区全域の全ての人々に届くようにすべきです。40日以上も、ガザ北部の人々は援助を受けることができていません。つまり、食糧も水も薬もありません。何も手に入らないのです。その状況は想像を絶するもので、ガザ北部の民間人の状況を言葉では表現できません。

パレスチナ赤新月社として言えるのは、現在、ガザ北部の包囲地域で稼働している救急車は1台もないということです。それは、ジャバリア難民キャンプ、 Beit ラヒア、 Beit ハヌーンのことです。ただし、パレスチナ赤新月社はガザ北部で活動していますが、包囲地域内では活動していません。私たちは、北部管轄区域の南部地域で活動しています。私たちの立ち入りは極めて制限されており、包囲地域にはどこにも到達できません。残念ながら、救急車を派遣してほしいという人々の要請を受けているにもかかわらず、それらの地域はイスラエルによって「レッドゾーン」とみなされており、立ち入りを絶えず拒否されているため、私たちは無力感を抱いています。そこへ到達しようとする救急車は、標的とされます。つまり、人々は文字通り、救急医療を受けられないまま出血多量で死亡してしまうのです。運よく、たとえロバの荷車であっても病院へ搬送された人々は、残存する3つの病院のいずれかに送られますが、それらの病院は壊滅的な状況にあります。現在、私たちはWHOや赤十字国際委員会(ICRC)と連携し、ガザ地区北部からガザ市内でまだ稼働している他の病院へ患者を搬送するための避難作戦を随時実施しています。

私は本日の議論で、一点付け加えたいことがあります。問題は、医療の面で状況がどれだけ深刻かということです。状況は壊滅的なレベルを超え、想像を絶するものです。そして、前例のない規模で起きている未曾有の攻撃のために、この状況は今後も悪化し続けるでしょう。このような事態はかつてありませんでした。機能停止に追

い込まれる病院がさらに増えています。パレスチナ赤新月社が運営する病院は2つしかありませんが、その両方が機能停止に追い込まれました。ガザ市のアル・クドゥス病院は、戦争開始直後に包囲・攻撃を受け、医療スタッフや患者を含む全員が避難を余儀なくされた結果、病院として機能がなくなりました。その後、病院は全焼し、現在は内部の全てが崩壊しています。したがって、たとえ戦争が終わったとしても、病院を再開するには時間がかかります。

パレスチナ医療センターの2つ目の病院であるガザ南部のアル・マル病院も、イスラエル軍に繰り返し攻撃され、包囲され、急襲されました。イスラエル軍は多くの医療スタッフとボランティアを多数拘束し、後に病院の避難を余儀なくさせ、施設に損害を与えました。アル・アマル病院は同地域の主要病院の一つであることを踏まえ、南部の人々に医療サービスを提供できるよう、なんとか病院を再開させました。現状では、住民の大多数が南部へ避難を余儀なくされています。特に慢性疾患を持つ人々、妊婦、その他の症例に対して、多くの医療サービスが提供されています。なぜなら、一次医療機関では、爆撃による外傷を負った患者に対して、命をつなぐ最低限の処置を行うのがやっとだからです。つまり、妊婦や感染症にかかった子供たち、その他の患者たちは、何の医療サービスも受けられない状態にあるのです。これこそが、私たちがこの病院を通じて提供しようとすることであり、地域社会に不可欠な医療サービスを提供するため、ガザ地区全域に25カ所の医療拠点を設置することに成功しました。パレスチナ赤新月社ではメンバー19名を亡くし、その全員が任務中に殉職しています。

Q53 議長：ネバル、本当に有り難うございました。現状を非常に明確に説明してくださり、あなた、スタッフの皆様、そしてパレスチナ赤新月社の全てのボランティアの方々に感謝申し上げます。皆様の成し遂げた活動は、実に素晴らしいものでした。また、支援する人々のために職務を全うしようとして命を落とした同僚の方々にも、敬意を表したいと思えます。本委員会はアル＝アリーシュを訪れ、エジプト赤新月社の関係者とお会いし、国境検問所で生じている困難を直接目にしました。貴団体とエジプト赤新月社に対して深い敬意を表します。一点確認させてください。先ほど、65台のトラックが入国したばかりだとおっしゃいましたが。

ネバル・ファルサフ：パレスチナ赤新月社に対してです。

議長：本日は、ブリンケン米国務長官がイスラエル政府に設定した、1日350人分の支援物資受け入れ制限解除の期限でした。1月に話を伺った際は、倉庫にまだ備蓄があり、1日500人が絶対的な最低限の基準とされていました。米国政府が設定したこの期限を踏まえ、現在、支援物資が搬入される兆しはありますか？

ネバル・ファルサフ：残念ながら、先月の数値によると、前月よりも少ない量の支援物資しか届いていません。ガザ北部に関しては、何も届いていません。人道支援物資の搬入が実質的に増加することを期待しています。先ほども申し上げた通り、ガザの全ての人々にこの不可欠な支援を届けるためには、人道支援物資の安全かつ持続的な搬入が本当に必要です。また、病院の保護も必要です。

状況はさらに悪化し続けるでしょう。もし真剣な対策が講じられないのであれば、私たちは国際社会に対し、病院と医療従事者を保護するための真剣な措置を講じるよう求めます。いかなる病院も攻撃されてはなりません。先ほど申し上げた通り、私は19人のパレスチナ赤新月社メンバーを失いました。彼らは皆、他人の命を救おうと任務中に命を落としたのです。このようなことは決してあってはならないことです。救急隊員は尊重され、保護され、他者のために安全に職務を遂行できる環境が整えられなければなりません。しかし残念ながら、私の同僚たちは、他人の命を救おうとするその一瞬一瞬が極めて危険に晒されており、勤務終了後に家族と再会できるかどうかも分からないまま、毎日家族に別れを告げなければならないのです。

Q54 議長：それがどのような気持ちなのか想像もできませんが、市民のために尽くそうと毎朝起き上がり、最善を尽くしてくださっている皆様の同僚の方々に、心から感謝します。次はローハンの番で、サムから質問があります。

ローハン・タルボット：米国のプリンケン国務長官とオースティン国防長官からの2024年10月13日付けの米国の書簡を取り上げていただきましたが、これは重要なことだと思います - 期限は今日でした - 私は、本日発表された人道支援機関による独立した評価表について、委員会の皆様にご注目いただきたいと思います。これにはノルウェー難民評議会 (NRC)、オックスファム、セーブ・ザ・チルドレンなどが含まれています。要約すると、これら NGO はイスラエルに対して提示された要求事項を幾つかの基準に分類し、過去 30 日間にそれらのうちどれが満たされたかを分析しました。完全に実施されたものは1つもなく、部分的に実施されたものは2つでした。

要求事項：1日あたり350台のトラックの入域 - 過去30日間、ガザへのトラックの入域数は今年に入って最も低い水準に留まっている。平均で1日42台で、戦争開始前の500台と比較すると大幅に減少。中には1日僅か6台の日もあった。人道支援を可能にするための「人道停戦」 - 実施されていない。人道支援活動の安全確保 - 実施されていない。50~100台の商用トラックの入域許可 - 実施されていない。医療スタッフを含む被拘禁者への赤十字国際委員会 (ICRC) の面会 - 報告されている通り、実施されていない。ガザ北部の封鎖解除 - 実施されておらず、状況はさらに悪化。あらゆる指標において、イスラエルは米国からの要求を遵守していない。

また、ジェノサイドを防止するために国際司法裁判所 (ICJ) が1月、3月、5月に命じた暫定措置の実施状況について、当方は独自の評価表を用意しています。これを本委員会に提示します。繰り返しになりますが、あらゆる暫定措置が、例外なく実施されていないのが現状です。ネバルが述べたように、私たちのメッセージは、援助に焦点を当てると言いつつ説明責任を欠き - 占領国としての義務に関してイスラエルが誠意を持って行動していないという事実に対処するための何らかの対抗措置を伴わない - 戦略は失敗に終わったということです。ガザにおいて何らかの意味ある支援対応を実現し、さらなる惨事を防ぐためには、イスラエルとのこうした相互作用や関係がどのように機能しているかについて、再考が必要です。

Q55 サム・ラシュワース：もう1つ質問したいのですが、議長、もしこれが本議論の範囲外でしたら、ご指摘ください。本日、赤新月社のシンボルを標的としたり、支援物資の輸送を妨害したりするなど、私が国際法違反にあたると思われる行為に関する明確な証拠が提示されました。いずれは責任の追及と正義の実現が必要となるため、この件に関してどのような証拠収集が行われているのか、ぜひお聞きしたいのです。どの個人がどのような行為を行っているのかを特定するための、具体的な調査活動は行われているのでしょうか？

議長：エミーナさんに答えてもらってもいいですか？

エミーナ・チェリモヴィッチ：ガザの障がい者の状況に関する最初の報告書で、私たちは、イスラエルの避難命令は、避難できない障がい者のニーズを考慮しておらず、実際には彼らを死傷リスクにさらしていると明確に指摘すべきでした。私は何十人もの障がいのある人々や子供たちにインタビューを行いました。その中には14歳の少女もいました。彼女は両親が自分を抱えて南に避難しようとした際、自分が両親の重荷になっていると感じ、両親に置いていってほしいと懇願せざるを得ませんでした。彼女は脳性麻痺を患っており、自宅への攻撃で補助具を失っていました。補助具を失った2日後にイスラエルは全員に北部から南部への避難を命じたのです。ガ

ザのパートナーの1人である39歳の盲目の男性は、避難することができずに殺されてしまいました。

木曜日（2024年11月14日）、ヒューマン・ライツ・ウォッチは、ガザにおける住民の避難と人道上の破壊に関する報告書を発表します。このレポートは、戦争犯罪および人道に対する罪が犯されたことを明確に立証するものです。また、本レポートの一環として、病院に対する無謀な、あるいは意図的な攻撃を通じて医療システムを含むインフラを破壊するイスラエルの行為が、イスラエル当局が住民の帰宅を認める意図を全く持っていないことを示す証拠を蓄積し、提示していることを記録しています。これは木曜日に発表されますが、私たちは過去1年間にわたり、この件について報告してきました。

また、マモード教授がガザの医療従事者に引き起こした精神衛生上の被害について述べたことに戻りたいと思います。医療従事者の拘禁に関する私たちの報告書には、イスラエル軍がガザの医療従事者を意図的に拘禁したことが記録されています。私たちが話を聞いた医療従事者は、自分たちが経験してきた精神的な健康被害やトラウマについて話してくれました。仕事に復帰したにもかかわらず、トラウマを抱え続けているとのことでした。

さらに、ネバルが人道支援の制限について述べたことは非常に重要でしたが、イスラエル当局が課した具体的な制限が、特に子供や障がいを持つ大人たちにどのような悪影響を与えているかについては、あまり語られていないという点も付け加えておきます。それは、イスラエル当局がいわゆる「軍民両用物品（デュアルユース）*」に対して課している制限のことです。これらの物品は民間用のものです。具体的には眼鏡や車椅子のことですが、イスラエルは安全上の理由からこれらのガザへの持ち込みを許可できないと主張しています。イスラエルは、これらの物品が軍事目的に利用される可能性があるとして主張しているのです。

訳者注 デュアルユース

イスラエルは、産業、医療、および基本的な民間インフラに必要な数千種類の必需品を「デュアルユース（軍民両用物品）」と定義し、ガザ地区への持ち込みを禁止、あるいは厳しく制限している。これらの物品は本質的には民生用であるが、イスラエルによれば軍事目的にも転用され得るとされ、その公式リストには、建設資材、化学薬品、機器、予備部品といった日用品が含まれている。

実際、外務省からの情報によると、英国政府が提供している支援 - ガザのパレスチナ人に向けて英国政府が提供しようとしている支援 - にもかかわらず、倉庫には、こうした特定の制限のために搬入できない車椅子が山積みになっているとのことでした。そして、障がいを持つ人々は不可欠である補助器具を利用できないため、避難が困難となり、死亡リスクが高まり、また水へのアクセスも困難であることから感染症のリスクが高まっています。サムが先ほど述べたように、ガザでは誰にとっても水へのアクセスは困難です。補助器具を利用できない場合、障がいを持つ人々にとってそれがどれほど困難なことか、想像してみてください。また、子供たちの状況についても、医療用ブーツや歩行器、車椅子といった補助器具を利用できないことに加え、医療へのアクセスも欠如しているため、彼らの状態が悪化していることを私たちは記録しています。

既に多くの証拠が存在していることは申し上げておきます。ヒューマン・ライツ・ウォッチはこれまで、そして現在も引き続き、英国に対し、戦争や国際人道法違反を非難するより具体的な措置を講じ、イスラエルが国際人道法を遵守するよう説得力のある働きかけを行うよう求めてきました。この点についても、今でも後でもいいので、お話ししたいと思います。実行可能な対策は確かに存在します。

Q56 議長：後ほどそれに対応していただければ幸いです。また、それらの提言について委員会へ書面で提出していただければ、大変有難いです。皆様には、まだ質問が残っていること、引き続きご意見を伺いたいことをお伝

えしますが、回答のペースを少し早めて頂くようお願いします。ネバル、もう一度お話し頂けますか？

ネバル・ファルサフ：私は、保護の重要性を強調したいと思います。国際人道法違反に関する質問がありました。残念ながら、私たちは 19 名の犠牲者を出しましたが、救急隊員が攻撃を受けるという恐ろしい状況にあり、しかも調整された任務の一環であったにもかかわらず、どの国も真剣な措置を講じませんでした。「調整された任務」とは、彼らが意図的に攻撃の標的とされたことを意味します。なぜなら、イスラエル当局は救急車のナンバープレートや、スタッフの氏名、ID 番号を十分に把握しているからです。スタッフの安全を確保するためのその調整にもかかわらず、イスラエル軍は意図的に私たちのスタッフを標的にしたのです。

ここで、6 歳のヒンド・ラジャブを救助しようとして命を落とした同僚のユスフ・ゼイノとアフメド・アル＝マドゥーンの話を読らざるにはいられません。それは 2024 年 1 月 29 日のことでした。ヒンド・ラジャブは親族と共に自家用車に乗り、ガザからの避難を試みていました。イスラエル軍は家族に向けて発砲し、ヒンドと 15 歳のいとこであるラヤンを除く全員を殺害しました。ラヤンは当時、当団体の通信員と電話で話していました。「撃たれている！」と叫んでいた彼女は、パレスチナ赤新月社の通信員と通話中に銃弾に倒れました。私たちは同じ番号に再度電話をかけ、ヒンドが受話器を取りました。そして、パレスチナ赤新月社の歴史上、最も衝撃的で、胸が張り裂けるような、そして最も長い通話となったのです。

3 時間にわたり、この少女は私たちの通信員に救急車を派遣してほしい、誰かを救出に来てほしいと懇願し続けました。彼女は恐怖に震え、叫び、絶叫し、絶え間なく銃声を聞きながら、「戦車がすぐそばまで来ている」と訴え、その間ずっと、3 時間もの間、家族の遺体に囲まれていたのです。彼女はただ助けを求めているのに、残念ながら、私たちはすぐに彼女を救いに行くことができませんでした。スタッフが無事に現場へアクセスできるよう、調整が必要だったのです。

安全なアクセスルートを確認するのに 3 時間かかりました。しかし残念なことに、その後、救急車が派遣されたものの、到着直後に救急車が爆撃を受けてしまいました。同僚のユスフとアフメドがヒンドを救出できたのかどうか、なんと 12 日間も不確かな状態が続いたのです。イスラエル軍の撤退後、救急車が爆撃され、ヒンドが死亡し、私たちの救急隊員が彼女の車からわずか数メートルの場所にいたことが判明しました。このような出来事が、何の処罰もなしに、何の責任も問われることなく、ただ見過ごされてしまうなんてあり得るのでしょうか？

ユスフとアフメドの家族は、毎日その死を悼んでいます。彼らが日々耐えている痛みは、私には想像できません。遺体が残骸となって救急車から運び出されたため、別れを告げる機会さえありませんでした。ユスフには、2 歳の双子の女の子を含む 5 人の子供がいます。今でも、救急車のサイレンが鳴ると、子供たちはパパが帰ってきたのだと思ってしまいます。医療従事者が他人を救おうとしている最中に命を落とすというのは、私たち人間としての恥であり、国際社会としての恥です。

これは単発の出来事ではありません。別の例として、私の同僚であるモハメド・アル＝オマリが、ガザの病院から患者を南部へ避難させようとした際に殺害された事件があります。これは国際赤十字委員会 (ICRC) による調整された任務でした。その任務の調整には 1 週間を要しました。アル・アハリ・バプテスト病院から患者の避難に成功した後、イスラエル軍は救急車隊に向けて発砲し、同僚のモハメド・アル＝オマリを殺害し、他の者にも負傷を負わせました。救急車の中には、南部へ避難させる必要があった子供の患者たちが乗っていました。調整が行われていたにもかかわらず、患者の命が危険にさらされ、私たちの医療スタッフが殺害されたのです。これに対する深刻な責任追及がない限り、このような事態は今後も続くでしょう。

私の同僚で、青少年・ボランティア部門の責任者であるヒダヤは、包囲された当時、カーン・ユースのアル・アマール病院にいました。病院は攻撃を受け、負傷者が出ました。彼女は負傷者の1人を救おうと駆けつけましたが、狙撃兵の銃弾に撃たれ、殺されました。弾丸は、本来なら彼女を守るはずだった赤新月社のマークを貫通して彼女に当たったのです。

同僚のアミールと話しました。彼はボランティアで、ヒダヤを失った悲しみに打ちひしがれています。彼は私にこう言いました。「ヒダヤを失ったなんて信じられません。彼女はまるで私の母のような存在でした。弾丸が彼女の赤新月社のベストを貫通して命を奪ったなんて、想像もできない。そんなことがあってから、どうやって新入ボランティアたちに啓発活動や国際人道法（IHL）の講習を行い、彼らを守るはずの赤十字・赤新月社のエンブレムについて教えればいいのか、想像もつかない。」残念ながら、その1ヶ月後、アミールもまた、アル・アマール病院内にいた際に狙撃兵に撃たれ、殺されました。

Q57 議長： ネバル、あなたが語っているような惨劇を食い止めるために、国際社会がもっと多くのことをしてこなかったことを、私個人としても恥ずかしく思います。支援活動家に対するいかなる攻撃も、嫌悪すべき、卑劣で悪質な行為です。法律は存在しており、誰もがそれを遵守しなければなりません。同僚の方々を亡くされたことに対し、心よりお悔やみ申し上げます。また、彼らの物語を共有してくださったことに心から感謝します。そうすることで、彼らの死が認識され、称えられ、そして願わくば、現在起きている事態を防ぐ一助となることを願っています。この話を共有してくださり、本当に有り難うございました。

ローハン、議論に入りたがっていましたよね。皆さん、本当に申し訳ありません。皆さんの話を聞きたいのですが、時間がなくなりそうです。私はあなた方全員に、もし望まれるなら、私たちに書簡を送ってくださるようお願いいたします。直接お話し頂くのとは異なりますが、皆さんのご意見を全てお聞きしたいと思っています。私たちはそれを記録に残し、この状況を変えたいと考えています。躊躇している余裕はないので、できる限りどこかで声明を出していただけないでしょうか？ そうして頂ければ大変有難いです。

ローハン・タルボット： この点について、率直に申し上げたいと思います。ジェノサイドを防止するために国際司法裁判所が命じた暫定措置の一つは、「イスラエル国は、ジェノサイド条約の適用範囲内とされる行為に関する申し立てに関連する証拠の破壊を防ぎ、その保全を確保するために、効果的な措置を講じなければならない」というものでした。しかし、法医学の専門家は誰も立ち入ることができませんでした。独立した人権専門家も立ち入ることができませんでした。国際メディアも立ち入ることができませんでした。率直に申し上げれば、人道支援機関は、説明責任の問題について強く声を上げれば、私たちの上にダモクレスの剣*がぶら下がっているかのように感じています。しかし、説明責任は、私たちが支援する人々を守るために不可欠なものです。

訳者注 ダモクレスの剣

古代ギリシャ時代の故事。シラクサの僭主ディオニュシオス二世は、権力に憧れる若き臣下ダモクレスを玉座に座らせるが、その頭上には糸状のもので吊り下げられた剣があった。権力は魅力的に映るけど危険と隣り合わせ、ということダモクレスは悟る。

しかし、専門家の証言や公開情報に基づき、人権理事会によって設置された独立した国連調査委員会による少なくとも1件の主要な調査が行われており、その調査では1ヶ月余り前に、「イスラエルはガザの医療制度を破壊するための組織的な政策を実施してきた」との結論が出されたことを記録しておきたいと思います。イスラエル治安部隊は、医療従事者を意図的に殺害、負傷させ、逮捕、拘束、虐待、拷問し、医療車両を標的にしており、

これは故意の殺害および虐待という戦争犯罪、ならびに絶滅という人道に対する罪を構成しています。イスラエル当局は、ガザ地区のパレスチナ住民に対する「集団的処罰」という枠組みの中で、ガザ地区への包囲を強化しながら、こうした行為を行っています。

つまり、イスラエルが国際法に違反し、戦争犯罪を犯し、絶滅という人道に対する罪を犯していると認定した独立機関の記録がすでに存在しています。国際刑事裁判所（ICC）に関するローマ規程における「絶滅」とは、人口の一部を破壊することを意図した生活環境を強いることなどを含め、人を殺害することを指しています。私たちの見解では、これはパレスチナ人に対する戦争であり、人道危機は単なる偶発的な副産物ではありません。

現地の医師や私たちの関係機関、そしてパレスチナ人たちからもお聞きになった通り - 独立したオブザーバーや現地の誰に尋ねても、そう答えるでしょう - 大規模な残虐行為が行われている状況です。したがって、政府の対応は、単に援助のみに基づいて行うことは到底できません。イスラエルが UNRWA のサービスを解体しようとしているのなら、UNRWA に資金を提供することに何の意味があるのでしょうか？アル=アリーシュに届く援助物資が、国境で積み下ろされているのを目の当たりにしているのに、その入域が許可されないのなら、援助を提供することに何の意味があるのでしょうか？仮に物資が入ったとしても、治安が確保されていないため配布できず、倉庫も燃料もなく、ガザの北側から包囲されているのが現状です。

私たちの同僚は毎日、それが地獄だと言っています。私が本当に心配なのは、同僚に「この人たちの前で私に何を言って欲しいの？」と尋ねると、「言わなくていい。もうどうでもいい。私たちは死ぬのを待っているだけだ」と言われることです。

Q58 アリス・マクドナルド：力強い証言、有り難うございました。次に、飢餓、栄養失調、そして飢饉の問題に移りますが、サムへ事実確認の質問があります。1月に委員会で証言して以来、食糧の入手状況は改善されましたか？

サム・ローズ： 確か11月に委員会で発言したと思いますが、いや、ガザにおける食糧の入手状況は - 私は先週の木曜日に現地を離れましたが - 民間部門の機能不全や人道支援物資の不足という点で、昨年11月の状況に戻ってしまっています。他の多くの証人もすでに言及していますが、入ってくるトラックの台数は、非常に正確な指標とは言えないものの、現時点で私たちが用いている指標です。

ガザ北部の封鎖に関して、現在、1ヶ月以上も物資が一切入ってません。封鎖が実施された時点で残っていたわずかな備蓄も全て底をつき、ガザのパン屋やその他の食品生産者が操業する能力は著しく制限されています。

Q59 アリス・マクドナルド：エミーナ、私たちは長い間、迫り来る飢饉や深刻化する飢餓について話し合ってきました。依然として飢饉が発生するリスクは高いままです。国際法上、飢餓はどのような時点で「戦争の武器」とみなされるのでしょうか？あなたは、今まさにそのような事態が起きていると思いますか？

エミーナ・チェリモヴィッチ： 私たちは、イスラエルがガザのパレスチナ人に対して飢餓を戦争の武器として用いていることを、特に栄養失調のリスクが一般的に高い障がいのある子供たちの視点から、報告し記録してきました。亡くなった子供たちの多くは障がいを持っていました。私たちはこれを記録し、報告してきました。断続的に支援物資は僅かに流入していましたが、障がいのある子供や大人が必要とする食糧品は届きませんでした。これらの極めて重要な物資は届かなかったのです。ヒューマン・ライツ・ウォッチは繰り返し、イスラエルが飢

餓を戦争の武器として、また電気、水、食糧、医療物資を遮断することでパレスチナ人に対する集団的処罰として利用していると報告してきました。

一点強調しておきたいことがあります。ローハン先ほど調査委員会について言及しましたが、英国政府が、英国製の戦闘機の部品がイスラエルによって国際人道法（IHL）の重大な違反を助長または実行するために使用される明確なリスクがあると結論付けたことも認識すべきです。そのため、英国政府は F-35 の部品がイスラエルに直接渡ることを停止しています。英国政府でさえ、イスラエルが（直接的あるいは間接的に）国際人道法に重大な違反を犯していることを認めているのです。この点を念頭に置き、説明責任と正義を求めるために具体的な行動を起こすべきです。もしよろしければ、今後英国が取るべき具体的な措置について、いくつか提案する時間はありますか？

議長：簡単をお願いします。

エミナ・チェリモヴィッチ：その1つは、米国やその他の第3国を経由するなど、間接的にイスラエルに渡る可能性のあるものを含め、イスラエルへのあらゆる武器供与・支援を停止することです。また、私たちは英国に、人権侵害の責任を負うイスラエル政府高官に対して、対象を絞った制裁を課すよう求めています。英国は、イスラエルとの貿易、軍事、安全保障、外交関係について包括的な見直しを行うことが重要です。これには、現行の英国・イスラエル貿易パートナーシップ協定の停止も含まれます。また、イスラエル当局が国際人権法および国際人道法に重大な違反を犯している限り、イスラエルとのいかなる自由貿易協定も締結すべきではありません。私たちは、英国に対し、占領下のパレスチナ領土内にある違法な入植地との貿易を禁止するよう求めています。

英国政府が具体的に行えることの1つは、現在、国連総会において、UNRWA の禁止に関する拘束力のある迅速な国際司法裁判所（ICJ）の勧告的意見を求める決議を推進している ノルウェーに加わること* です。英国がこの取り組みにノルウェーと共に参加する姿が見られれば素晴らしいことだと思います。

訳者注 ノルウェーに加わること

国連総会は 2024 年 12 月、国際司法裁判所（ICJ）に対し、ノルウェーが起草した「ガザにおけるパレスチナ市民の生存に必要な人道援助の無制限な提供を確保・促進するイスラエルの人道的義務について勧告的意見を出すよう求める決議」を、圧倒的多数で採択。ただし、ICJ の勧告的意見に法的拘束力はなく、ICJ は強制執行権を持っていない。

これまで触れる機会がなかったことですが、イスラエルはガザへの物資搬入を管理しているだけでなく、誰がガザを離れることができるかについても厳しい制限を課しています。ユニセフによると、緊急医療ケアを必要とする 2,500 人の子供たちが避難し、ガザの外で治療を受けるには 7 年かかる見込みです。私たちは英国に対し、ガザでは受けられない必要な医療のために、子供や大人が確実に避難できるよう、イスラエルに働きかけるよう求めています。また、高度な医療制度を有する他の政府と同様に、英国政府に対しても、ガザからの患者を受け入れ、患者の帰還の権利を保障するためにパレスチナおよびイスラエル当局と協力するよう求めています。

最後に、その他の公的な発信において、障がいを持つ子供たちに及んでいる甚大な被害について警鐘を鳴らしていただくようお願いいたします。私はこの活動に 1 年間携わり、状況を記録し続けており、インタビューしたすべての子供たちや家族と今も連絡を取り合っていますが、状況は日増しに壊滅的なものとなっています。

Q60 ローラ・カーク＝スミス：妊娠中の女性が何らかの支援を得るために経験する困難について少し聞いていま

すが、まず最初に、この戦争が女性に与える影響についてもう少し詳しく話していただけますか？

ネバル・ファルサフ： この続く戦争が女性たちに与えている影響は、言葉では言い表せないです。統計によれば、何千人もの女性が殺害され、子供たちも失っています。何千人もの女性が独り身となり、父親の役割も果たさなければならず、子供たちに僅かな食糧や水を手に入れるために日々の苦闘に直面しています。多くの女性は、家族のために食糧を温存しようと、自ら食事を控えて空腹に耐えています。

ガザでは、6万人近くの妊婦があらゆる物資に事欠いています。彼女たちは栄養失調に陥っており、必要な食糧を得られず、当然受けるべき適切な医療サービスさえ受けられていません。避難所で生活し、数千人が1つのトイレを共有しています。避難を余儀なくされた妊婦が、このような非人道的な状況をいかに耐え忍ばなければならないか、想像することさえできないでしょう。しかも、これは一度きりの話ではありません。多くの女性が何度も避難を余儀なくされ、平均的な家族は3回、4回、あるいは5回も避難を繰り返しています。

妊娠中の女性たちは、爆撃が続く中で非常に過酷な状況に耐えています。彼女たちは家族や愛する人を失いました。多くはすでに何度も爆撃を受け、避難を余儀なくされた結果、家を失っています。避難といえば、その殆どが徒歩での移動となります。どこへたどり着くにも、交通手段もなく、至る所に瓦礫が散乱する中、恐ろしく過酷な状況下で、非常に長い距離を徒歩で移動しなければなりません。そして避難場所を見つけなければなりません。通常「避難所」と言っても、実際の避難所があるわけではありません。ただ、人々が滞在できる場所として学校が提供されているだけで、何のサービスもありません。そこは単に眠るだけの場所なのです。

そして、先ほども述べたように、テントで生活する女性であっても、日々の苦難はつきものです。国内避難民のコミュニティ、とりわけ女性や子供たちの間で、感染症が拡大しているのを私たちは目の当たりにしてきました。そして残念なことに、医療体制が崩壊しているため、妊婦であっても病院で出産できるという贅沢は殆ど許されません。運良く病院で出産できたとしても、それは「入ってはすぐ出る」ようなもので、すでに多くの患者で溢れかえっている病院に、女性が滞在する機会すら与えられないのが実情です。悲劇的なことに、麻酔薬が底をついたため、多くの女性が麻酔なしでの帝王切開を余儀なくされています。病院には麻酔薬や鎮痛剤、その他の基本的な医薬品や医療物資が不足しており、これが絶え間ない苦難の一つとなっています。

Q61 ローラ・キルケ=スミス： ローハン、あなたは以前、委員会で新生児集中治療サービスが停止していると話していたと思います。何か変わりましたか？どのような支援がありますか？

ローハン・タルボット： 残念ながら、状況はさらに悪化しています。この危機の最中を含め、長期間にわたりMAPの支援を受けていた、現存する数少ない新生児集中治療室の一つが、カマル・アドワン病院にありました。ご存知の通り、同病院は現在、包囲下の北部地域にある病院の一つです。新生児の保護が不可能となったため、この集中治療室は事実上閉鎖されました。ガザ北部への包囲が激化した初期段階で、新生児たちはガザにある「患者の友慈善協会 (Patient's Friends Benevolent Society)」病院へ避難させられました。同病院も、MAPの支援を受けています。私たちは、これらの新生児やその他の患者をケアするため、その場しのぎの小児集中治療室を設置できるよう、できる限りの努力をしてきました。しかし残念ながら、ガザ社会において最も幼く、最も脆弱な人々の命を救うために必要な水準や規模で、こうした医療サービスが提供されているとは到底言えません。

Q62 ノア・ロー： 障がいのある人々、特に子供たちへの長期的な影響の可能性については、既に多くのことを耳にしています。あなたは、長期的に深刻な健康への影響の可能性を指摘しました。障がいのある人々への他の影

響で、私たちが留意すべきものや、指摘したいことはありますか？

エミーナ・チェリモヴィッチ：これまで言及する機会がなかったのですが、本当に悪循環なのです。イスラエルが人口密集地域で爆発兵器を使用したことで（ユニセフとセーブ・ザ・チルドレンが過去に報告）、何千人もの子供たちが障がいを持つことになり、何千人もの子供や大人が負傷したことを私たちは記録しました。そして、ますます多くの子供や大人が障がいを持つという悪循環に直面しています。同時に、イスラエルが提供すべき到達可能で効果的な事前警告へのアクセスが欠如していることや、基本的ニーズが満たされない仮設キャンプで生活しているために、深刻な破壊と不衛生な環境に加え、避難できないことによる死亡や負傷の危険に晒されています。

私は、外傷性切断によって障がいを持った子供たちにインタビューしたことがあります。マリクという子供は、母親と一緒にショッピングモールに食べ物のクーポンを買いに行きました。そこは民間のインフラでしたが、イスラエルの攻撃がそのショッピングモールを襲いました。彼の母親は、意識が戻ったときにはまだ子供の手を握っていたと言っていました。彼女は走り出したが、ある時点で子供の手が軽いことに気づきました。振り返ると、手を握っているのは子供の手だけで、マリクの姿はどこにもありませんでした。今日、マリクの話をごにお届けしたいと思ったのは、ガザでは何千人もの子供たちが手足を失っているという話に人々が慣れてしまっていると感じたからです。しかし、実際に1人の具体的な子供と向き合い、それが彼らに与える影響を理解し、そしてそうした事態がいかんにして防ぐことができ、いかに不必要なものなのかを悟ったとき、それを心に留めておいてほしいとお願いしたいのです。これは、10月7日以前にも障がいがあった子供たちだけの問題ではなく、その後障がいを負った何千人もの子供たちの問題でもあるのです。だからこそ、私たちは引き続き、英国に、第3国を経由する間接的なものを含め、イスラエルへの全ての武器輸出を停止するよう求めているのです。

Q63 ノア・ロー：最後に、イスラエルの「デュアルユース」国境検査が、障がいのある子供たちにどのような影響を与えているか、具体例を挙げていただけますか？

エミナ・チェリモヴィッチ：私たちが知っているのは、イスラエル軍がラファ検問所を占拠して以来、ガザから出ることを許可された患者が237人以下だということです。ガザ内での治療へのアクセスには厳しい制限があります。先ほど妊婦についての質問がありましたが、ガザでは、以前は機能していた36の病院のうち、妊婦に何らかの医療を提供できるのはわずか12の医療施設です。それでも、女性はすぐに病院から追い出されてしまいます。話を戻して、その女性が妊娠している上に、障がいもあることを想像してみてください。これは、ガザへの持ち込みだけでなく、ガザからの持ち出しにも制限が課されているという状況と密接に関連しています。

また、避難活動に取り組んでいる各国政府、イスラエルに対しガザからの患者の退去を許可するよう圧力をかけている各国政府、そして自国で病床や治療を提供・確保している各国政府に対し、障がいのある子供たちも対象に含めるよう求めています。彼らはこれまで見過ごされてきており、注目は主に負傷した子供たちに向けられ、障害のある子供たちには向けられてきませんでした。私たちが把握している主な制約は、たとえイスラエル当局が子供にガザからの出国を許可したとしても、その許可が直近の介護者や家族他の子供たちには及ばないという点です。これは問題です。なぜなら、私たちは家族の分離を絶対に許容したくないからです。家族の分離は、子供に心理的な影響を与えるため、あってはならないことです。先ほども述べたように、国連機関が提示した数字を考えてみてください。実際、わずか2週間前、ユニセフは、イスラエルが避難に対する厳しい制限を継続すれば、緊急医療ケアを必要とする子供たちがガザを脱出できるようになるまでに7年かかると述べていました。

Q64 デビッド・リード：モニカからの資金調達についての最初の質問に戻ります。明らかに、米国が撤退したために予算のほぼ3分の1が削減されました。トランプ次期大統領の就任、新政権、そして資金調達が再開されるのか、それとも今あるものでやっていくしかないのかという点で、UNRWAは現時点でどのように考えているのでしょうか？

サム・ローズ：興味深い質問ですが、私は加盟国の国内政治に関わりたくないので、あまり話すことができません。

私たちは、前のトランプ政権の下で、UNRWAからの資金提供の保留や、当時取られた一方的な措置に関して何があったかを知っています。そのため、現在の資金提供の停止が続くのではないかと、非常に懸念しています。そうならないことを願っていますが、それ以上に言えることはありません。

議長：本日ご提示いただいた証言は、ご覧の通り、当委員会に多大な影響を与えました。また、この審議を視聴されている方々にも、同様に多大な影響を与えたと確信しております。そして、意思決定者たちに対しても、この証言が確実に大きな影響を与えるよう努めることが、私たちの責務です。

今後、追加の証言や説明を求めるために、改めて皆様にお伺いすることもあるかもしれません。しかし、委員会を代表して、お時間を割いてご出席いただいたことに対し、「誠に有り難うございました」と申し上げさせていただきます。皆様には現在、ご自身の責任ではないにもかかわらず、多大なプレッシャーがかかっていることを承知しています。それにもかかわらず、ここに来て私たちに話をしてくださったことは、大変寛大なご厚意です。

また、この事態により直接的な影響を受けた同僚を亡くされた皆様、そして、私たちが想像しうる限り最も困難な時期を乗り越えるために同僚を支えようとして間接的な影響を受けた皆様に対し、心よりお悔やみ申し上げます。皆様が毎朝起き上がり、これまで以上に私たちの支援を必要としている民間人のために戦い続けてくださっていることに、私たちは心から感謝しています。